

かもしれませんが、県としてはできるだけ一緒にあって整備を固ろうと考えています。

それと裏腹の問題として、過疎対策がございます。県の人口にストップがかかったといっても、地域的にアンバランスがあります。

## ふるさと熊本を築く

### —心のふれあいを基調に—

そのことをひっくり返して新しいふるさと熊本を皆んなの力を結集して作り上げるというのが、私の基本的な呼びかけのテーマであったわけです。

私のいう「新しいふるさと」は次の四つのことを考えております。

先ず美しい自然があるというのが第一番目の条件です。

第二番目には、祖先から受け継いだ勝れた文化伝統があること。これは遺跡を発掘してそれを大事にするという種類のものだけではなしに、いろいろな多面的な要素があるわけです。

例えば、春夏秋冬、昔から伝わった伝統的な行事というものがあろうと思うんです。その中には部落や町が絡む

やはり、へき地、島などにおいては人口減少の姿が依然として続いているわけです。そういう所に対しての対策の重視というのを考えています。

以上五つのことが具体的な政策として私が申してきたことです。

みで参加するような非常に楽しい祭、しきたりといったものもあるはずで、そういうものを大事にしていかなければならないのです。

また昔から伝わる伝統工芸。例えば手造りで紙をすいておったことや、勝れた芸能などを大事にしていくことです。

第三番目には、地域連帯性を確立することです。

精神的なことなんですが、昔のふるさと、私達が思い出す「ふるさと」というのは、現代のように、無味乾燥ないわゆる人間の疎外感が年とともに増えてゆくような、地域社会ではなかったと思うんです。

先程申しました人間の信頼関係もこれとても突き詰めていけば、自分の家族だけしか信用できないという淋しい風潮がはびこりつつあるようにおもえます。

そういった傾向の中で、ひとつの地域社会、地方自治というものの意義、存在価値というものがあろうか本

人手の足りない時には皆んなで助け合い、一緒に共同作業をする、炊事も一緒にやる、そういうつながり、あるいは他家の子供でも悪い事をする場合にはたしなめるといふように、その地域ぐるみで賑をするといったこともあったでしょう。

要するに私は温かい心のふれあい、人間の信頼感、そういう言葉で考えてみたいと思ふんです。

また別の角度でいうならば、自分の家というものは非常に大事にするんですね。垣根の内は毎日掃除をし、木を植え、あるいは近代的な家具、電機器具を備え付け快適な暮らしが営まれている。一面において大変結構であります。しかし一歩垣根の外に出るとゴミを捨てても、汚くしても平気だというセンスなどは非常に問題があると思ふます。

どうも最近では自分の垣根の中にとじこもり、そして平穩な安易な生活というものを求めようとする風潮の時代になってきていると思ふます。

先程申しました人間の信頼関係もこれとても突き詰めていけば、自分の家族だけしか信用できないという淋しい風潮がはびこりつつあるようにおもえます。

そういった傾向の中で、ひとつの地域社会、地方自治というものの意義、存在価値というものがあろうか本

質的に考えてみなければならぬと思ふます。

従って、社会教育や社会体育の問題、農政の面にも共同作業とか、各々が大型農機具を競争して買うというのでなしに、やっぱり機械の効率を上げるために共同利用なども経営的にも必要だろうと思ふます。中小企業にしても同じことです。

今まで申してきました三つのことが私のふるさとのイメージの中の基本的なものです。しかしながら、この三つのことでは不十分だと思ふんです。古いものに憧れるだけではいけないわけです。

第四番目には、生活を充実させるという意味からすれば、産業、活力のある産業というものをベースに考えていかなければいけない。所得を上げなければならぬということに帰ってくるわけです。

このことを合わせて四つのことを、私の「ふるさと」という新しいイメージで包括して申しあげているわけです。このようなことが、今後の地方行政の目指すべき基本的な方向ではなからうかと思ふんです。

新しい熊本県を考え、創造していくために県民皆んなで、それぞれの分野で参加していただく、私はこれが一番大事なことだと考えるのです。

り伸びてきておるんです。

畜産の飼料対策などまだまだ問題はありますが、経営規模のある程度大きい自立経営農家というものが、県下の農村地帯に定着しつつあります。それぞれの地域の特性を生かし、新しい農業の方向というものがある意味においては着実に進められつつあるのではないかと思います。

個々の農家のことになると千差万別で、経営状態や立地条件なりいろいろありまして、なかなか一概に言えません。が、総体的に言うなら後継者の育成は非常に大事なことです。

それを裏付ける意味で、基盤整備事業とか、融資の問題とか、技術指導の問題

(知事) —はじめに長々お話ししましたが、これが私の政治姿勢なり基本方針であります。一応ご理解いただいたと思ふます。

## ◇重要な後継者づくり

—農業—

### 基盤整備など積極的

(米ヶ田) —総需要抑制下での農業投資という問題についてうかがいます。



第一次産業の場合、一定期間の抑制期間があると、それを回復させるために、また効果がでるまでに相当期間がかかります。

そのような意味で、農業基盤整備、農村生活環境整備などの農業投資には財政の許す範囲内で出来るだけやっていただきたいというのが農業者の希望でございます。

(知事) —おっしゃるとおりです。農業生産の基盤である構造改善事業、圃場整備や湛水防除など重要な問題だと思ふ

それぞれの立場で、ご自由に県政に対するご要望やご意見などをお聞かせいただきたいと思ふます。

す。

過去四年間、熊本県の生産基盤整備投資額は、全国でも北海道、新潟に次ぐ多額の投資をしております。ここ数年、道路整備に費やしている以上に投資してきているわけです。今後でもできるだけやっつけていかなければならないと思っております。

おそらく旧藩時代から続いてきた旧態依然とした農村の状況を抜本的に変えていこうというわけですから、農村にとっては大きな変化です。

(米ヶ田) —農業基盤整備の問題は、今日のように農業が機械化されてきますと、機械の効率化、農村の都市化や労働生産性の問題を含めて基礎になってくるものですからよろしく願ひします。

(知事) —できるだけやらなければならぬと思ふます。今後、農業経営を合理化するため生産者自体も組織化して協同経営のやり方を導入していかなければならぬでしょう。大型農機具を購入しても、年に何回しか動かないでは借金が増えるばかりです。

それから、優秀な後継者、人づくりも大きなテーマだと思ふますね。

### 農業に夢を

(米ヶ田) —その農業後継者の問題ですが、今年の一月の新聞でしたか、ある農家の青年が農家を継げと強要されて自殺したという記事を読みました。これは極端な例かもしれませんが、現在の若い人達が農業を嫌っているという事は事実だろうと思ふます。現に熊本地方の新規就農者の推移をみると、昭和四十五年に比べて昭和四十九年は約五分の一に減っているというのが現実です。

そこで、これからの農業を担っていく後継者に対して、国、県、市町村、農協などが勿論家庭も含みますが、これらをもっと考えて現在の若者が希望をもって農業に取り組めるような環境を作

ってやる必要があると思ふます。例えば、具体的に四Hクラブや青年団など組織の育成、資金関係としては、農業後継者対策資金の枠を増やすとか、いろいろ方法はあると思ふますが、夢と希望をもつて農業に取り組めるような機会を作ってもらいたいと思ふます。

(知事) —私もおっしゃる通りだろうと思ふます。今言われた事が一般的ではあっても、中には若い人達のグループや積極的に前向きに取り組んでおられる方々が沢山おられます。

県下の農家戸数は年々減っています。ところが、農業生産状況はいろんな面を総合してみても可成



▲県高等農業学園で技術習得中の女子後継者